

のころ、試験のた

に、毎日緊張して

た。今、試験が7や

と過ぎた

達の李さんといっ

よに町へ行った。

い間町へ行かな

ためか、私にとっ

、喜ぶこと23こっ

たとえは買わな

で、

うた。李さんは？

新华出版社

本来買い物

なもの

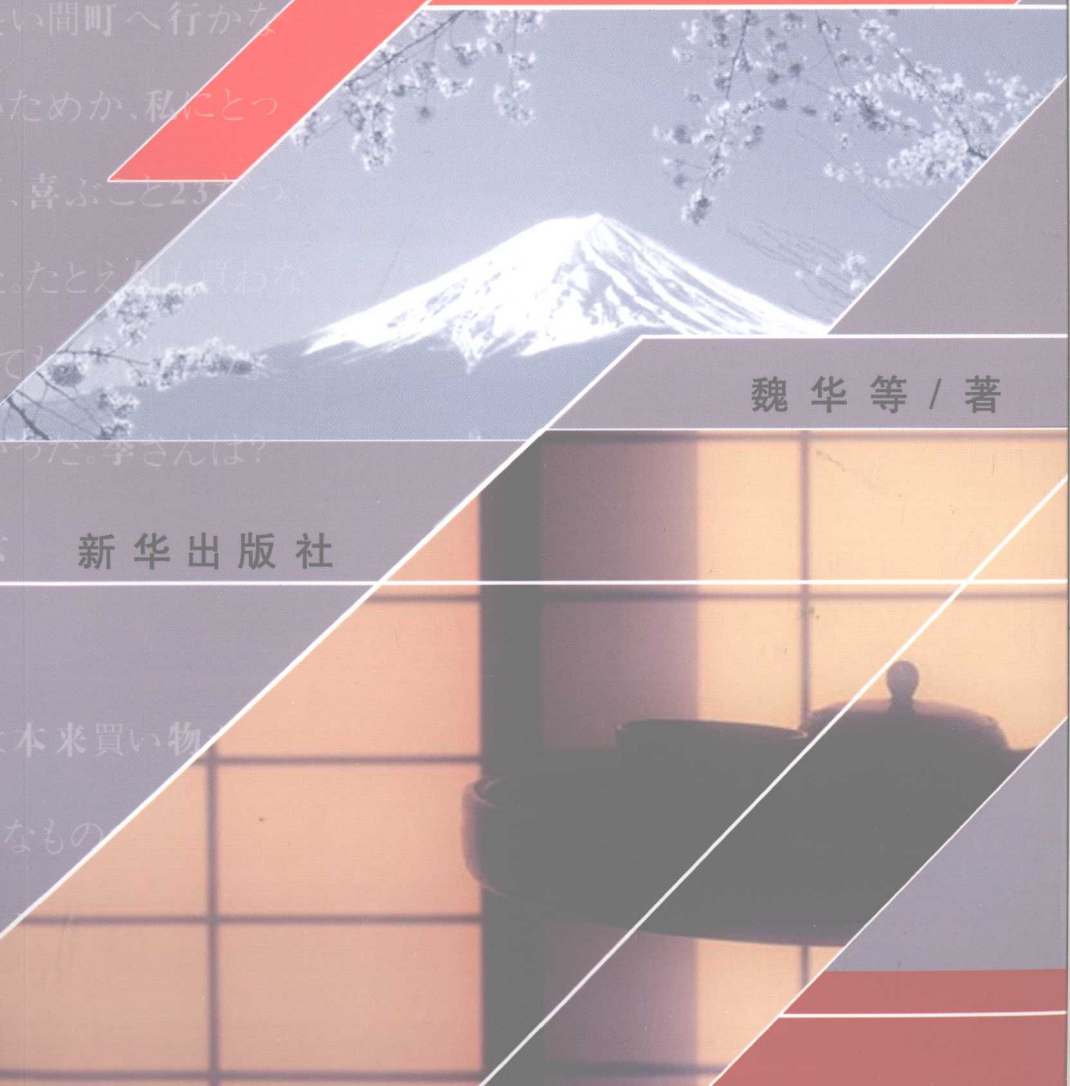
日语实用语法

新研究

稻垣逸夫/监修 王磊/顾问

孙士超/主审(安阳师范学院)

魏 华 等 / 著



日语实用语法新研究

代表著作人：魏 华

主要著作人：魏 华 张学焕 马宵月 李方阳
(安阳师范学院)

全体合编著人：魏 华 张学焕 马宵月 李方阳
(安阳师范学院)

何功星 郝道合 荣喜朝 林 坡
夏建雪

图书在版编目 (CIP) 数据

日语实用语法新研究/魏华等著. — 北京: 新华出版社, 2009. 2
ISBN 978 — 7 — 5011 — 8708 — 9
I. 日… II. 魏… III. 日语 — 语法 — 研究 IV. H3646
中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2009) 第 016350 号

日语实用语法新研究

责任编辑: 张程 张瑾

策 划: 冷江帆

版式设计: 鸿鹄志业

出版发行: 新华出版社

地 址: 北京石景山区京原路 8 号

网 址: <http://www.xinhupub.com>
<http://press.xinhuanet.com>

邮 编: 100040

经 销: 新华书店

印 刷: 北京市运河印刷有限公司

开 本: 880 毫米×1230 毫米 1/32

印 张: 12.43

字 数: 288 千

版 次: 2009 年 1 月第 1 版

印 次: 2009 年 1 月第 1 次印刷

书 号: ISBN 978 — 7 — 5011 — 8708 — 9

定 价: 29.00 元

本社购书热线: (010) 63077122 中国新闻书店电话: (010) 63072012

图书如有印装问题, 请与印刷厂联系调换。

电话: (010) 86710973 65473413

前 言

日语实用语法新研究的特色之一是：针对专业低、中年级和二年级学生所著。该书的主要目的是给达到日语初级、中级甚至高级日语的学生解决常用语法难题（兼顾提供地道的示范文）而著，通过本书的第一篇真实地充实了用中国人的思维来示例语法的问题。丰富了实用语法研究，突破了传统的单纯以句子示例的传统，为语法研究注入了新的活力，这是该书“第一新”。

日语实用语法新研究的特色之二是：让所学句型灵活运用于短文，让学生直接攫取教师带给他们的经验，从而更加直接地运用。同时，第二篇文法深化篇，让学生真正理解示例短文所运用的重要语法的同时，进行更深层次的了解，由于篇幅所限，我们选择简洁论文形式加以阐述。

日语实用语法新研究的特色之三是：第三篇《示例短文修改文篇》侧重点在为第四篇《小小区别篇》提供辨异语法元素而为，对这些辨异元素的全新阐释，是撰写者耗八年推敲之力而作，清新实用，此乃本书“第二新”。

总而言之：通过本书的著写，我们既要把大家学习日语、利用日语写作文等时、实用日语语法（初级和中级）时的迷惑，加以最大程度的解决，又顺便给学生或者考生提供了一手的和地道的范文（即示例短文修改文）。就是说本书在尽力解决初级和中级日语学习者语法难题，希望各位学生和考生通过阅读本书，实现应有的收获。

日语实用语法新研究：是集体智慧的结晶。各位合著人员分别

做了以下细致的分工。由有一定教学经验的安阳师范学院魏华老师担纲主著,由安阳师范学院教学骨干张学焕老师负责第一篇第一章(新编日语第一册)、第二篇1、2共两个句型的撰写、第三篇第一章(新编日语第一册)、第五篇第一章(新编日语第一册)部分的撰写;由毕业于广外研究生院的安阳师范学院马宵月老师负责第一篇第二章(新编日语第二册)的撰写;毕业于中山大学研究生院的安阳师范学院李方阳老师负责第一篇第三章(新编日语第三册)的撰写;河南科技大学外国语学院荣喜朝老师负责第二篇第3—12共十个句型的撰写;商丘师范学院何功星老师负责第三篇第二章(新编日语第二册)、第三章(新编日语第三册)、第二篇第13—27共十五个句型的撰写;河南科技学院外语系教师郝道合老师负责第二篇第28—38共十一个句型的撰写;安阳师范学院魏华老师负责第二篇第39—42共四个句型的撰写;南阳师范学院夏建雪老师负责第五篇第二章(新编日语第二册)、第二篇第43—46共四个句型的撰写;南阳师范学院林坡老师负责第五篇第三章(新编日语第三册)、第二篇第47—50共四个句型的撰写;由安阳师范学院魏华老师(除了负责第二篇第39—42共四个句型的撰写外,还)负责第一篇第四章(标准日本语初级)、第五章(标准日本语中级),第三篇第四章(标准日本语初级)、第五章(标准日本语中级),第四篇(小小区别篇)全部内容,第五篇第四章(标准日本语初级)、第五章(标准日本语中级),附录I(三篇解疑难论文)、附录II(实用语法索引)等内容。

由日本知名语言文学专家稻垣逸夫专家对所有示例短文进行精心修改,从而产生示例短文修改文(推荐大家作为范文来用)和示例短文之间的辩异元素,为第四篇作了充分的准备。同时本书也给出了这些示例短文修改文对应的汉义文。

由于作者经验不足,能力有限,望读者请批评指下。

批评邮箱为:miyufeiyan2005@yahoo.com.cn。

目 录

第一篇 示例短文篇

本篇《示例短文篇》，主要是为第二篇《文法深化篇》和第四篇《小小区别篇》示例而撰写的，侧重点在为第二篇《文法深化篇》示例，同时也兼顾了《新编日语》123 册和《标准日本语》初级、中级的其他常见语法。为了清晰语法分工，本书不但在重点难点句型右上角给出了标注（属于第几个重点难点句型做了大概标注），而且以兼顾语法划分章节。分别以《新编日语》123 册和《标准日本语》初级、中级来命名章节。

第一章 新编日语第一册	(2)
第二章 新编日语第二册	(14)
第三章 新编日语第三册	(27)
第四章 标准日本语初级	(40)
第五章 标准日本语中级	(47)

第二篇 文法深化篇

本篇语法深化篇是撰写人根据多年教学经验搜集，日语初级、中级重点难点语法而得，文法深化篇是以特殊方式——简洁论文的形式对这些语法的接续、意义、汉译、具体用法给予了较为详细的论述，并在每篇简洁论文最后以总而言之的独特黑体字结尾。这样

整个文法深化篇,以一目了然的介绍为题目,以示例短文中出现的例句入题,然后通过接续、意义、汉译、具体用法诸部分的简洁而明了的阐述,最终以简洁凝练的黑体字结束。这样各篇论文既给读者提供了仔细阅读下去的具体文本和例句,又为忙碌而又无暇深究语法翔实的读者,只看题目和最终黑体总结部分便可对语法的详细用法了如指掌的良好机会。可谓“可详可略,随机而阅”!

第三篇 示例短文修改文篇

本篇《示例短文修改文篇》侧重点在为第四篇《小小区别篇》提供辩异语法元素而为,同时也兼顾了《新编日语》123册和《标准日本语》初级、中级的其他常见语法。为了清晰语法分工,本书不但在重点难点句型右上角给出了标注(属于第几个小小区别语法元素做了大概标注),而且以兼顾语法划分章节。分别以《新编日语》123册和《标准日本语》初级、中级来命名章节。

第一章 新编日语第一册	(222)
第二章 新编日语第二册	(234)
第三章 新编日语第三册	(247)
第四章 标准日本语初级	(260)
第五章 标准日本语中级	(267)

第四篇 小小区别篇

本篇是从某个角度或者语感出发对重点词汇,特别是语法现象进行的某方面的区别,便于同学们作题或者作文时用,由于本书篇幅的限制,本部分只对示例短文修改文中出现的知识点进行了小小的区别。

第五篇 汉义文篇

本篇是针对第三篇示例短文修改文篇而作的汉义篇，帮读者尽量避免有关汉语对应的语言歧义。

第一章 新编日语第一册	(315)
第二章 新编日语第二册	(324)
第三章 新编日语第三册	(334)
第四章 标准日本语初级	(344)
第五章 标准日本语中级	(350)
附录 I 三篇解疑难论文索引	(360)
解疑论文	(367)
解疑论文	(376)
解疑论文	(383)
附录 II 实用语法索引	(384)

第一篇 示例短文篇

本篇《示例短文篇》，主要是为第二篇《文法深化篇》和第四篇《小小区别篇》示例而撰写的，侧重点在为第二篇《文法深化篇》示例，同时也兼顾了《新编日语》123册和《标准日本语》初级、中级的其他常见语法。为了清晰语法分工，本书不但在重点难点句型右上角给出了标注（属于第几个重点难点句型做了大概标注），而且以兼顾语法划分章节。分别以《新编日语》123册和《标准日本语》初级、中级来命名章节。

第一篇五章内容分别是对日语常见实用句型“だって”、“つもり”、“なんて”、“ほか”、“だけ”、“とも”、“が”、“なら”、“ても”、“でも”、“し”、“もの”、“のに”、“なければ（ならない）”、“だろう（か）”、“ように”、“わけだ”、“なり”、“とする”、“以上”、“過ぎない”、“いくら”、“こと”、“そうだ”、“のだ”、“けれど”、“にする”、“ては”、“かもしれない”、“てみる”、“はずだ”、“ところだ”、“まで”、“と”、“てしまう”、“たり”、“べきだ”、“すぎる”、“くなる”、“せい”、“まい”、“ようだ”、“こそ”、“ながら”、“ほう”、“うえ”、“として”、“ばかり”、“ということ”、“によって”等50个实用语法现象进行了特别的示例：

第一章 新編日語第一冊

1. 私の趣味

私の趣味は、推理小説を読むこと²³です。中学校の時、「シャーロック・ホームズのストーリー」という推理小説に出会って、一気に読んでしまいました。とてもすばらしかったです。それをきっかけとして、私は推理小説が⁷好きになりました。

日本の推理小説家ときたら、私は一人だけ⁵知っています。その方は松本清張です。彼の作品を読んだことが⁷あります。たとえば、「点と線」や「砂の器」や「夜の声」などです。しかし、自分が⁷日本の地理や風俗などあまり知っていないせい⁴⁰か、ちょっと分かりにくいです。例えば、「点と線」の中で、九州や博多湾や箱根駅や香椎駅など、確かの位置が⁷知らないので、「あの人はいったいどこへ行ったか」分かりません。

大学の先生の教えによって⁵⁰、松本清張はたいへん有名だそうです。彼は学歴が⁷低いにもかかわらず、たいへん高尚な文章を書きます。それに比べて、日本のもう一つの推理小説家の内田康夫の作品は、気軽に読めるそうです。内田康夫について、名前だけ⁵聞いたことが⁷ありますが、作品を読んだことが⁷一度もありません。機会が⁷あったら、ぜひ読んでみたいです。

2. 童言無忌

母：「子供は風の子だ」って、こたつのそばにばかり⁴⁸いないで、外へ出て遊びなさい。

子：だって¹、ぼくは風の子じゃなくて、ママの子ですよ²⁶。

父：ゆうちゃん、今度の試験、どうだろう？

子：三十六位を取った。

父：おい、すごいね。お前はいつも三十七位を取るなんて³。

子：だって1、うちのクラスで、ある生徒は他校に転校したばかり⁴⁸もんだ。

子供の言葉はいつもおもしろいですね。しかし、子供は自分の考えどおりに言ったのは、ときどき言うべきではない言葉です。ですから、中国には、春節のとき、子供の言葉が神様を怒らせないために、赤い紙で「童言無忌」という黒い字を書いて、壁にのりで張り付けます。それは、「子供は何も知らずに、言いたいこと²³ばかり⁴⁸言っています。神様は怒らないでください。」という願いです。

3. 新しい服

このごろ、試験のために、毎日緊張していた。今、試験が⁷やつと過ぎた。だから、友達の李さんといっしょに町へ行った。長い間町へ行かないためか、私にとって、喜ぶこと²³だった。たとえ何も買わなくても⁹、気分が⁷よかった。李さんは「女は本来買い物が好きなもの¹²だよ²⁶。」と言った。

ある洋装店の前に、私は止まった。店の中に赤いセーターが⁷一つかかっていて。私はそのセーターが一目見て気に入った。そして、店員に頼んで取りおろした。私は着てみる³⁰と³⁴、ちょうどよかった。スタイルもサイズも私にぴったり合った。それにもまして、いちばん気に入ったのは色だ。私の服は色が白っぽいでなければ黒っぽいだ。よく友達に「おばさんではあるまい⁴¹し、なぜそんな地味な色の服をよく着ているの。」と非難した。今度この鮮やかな色の服を買って、みんなに活発な印象を作ろうと思って、その赤いセーターを買って、着たままで帰った。私の思いどおりに、みんなびっくりした。「あなたは赤い服を着ても⁹きれいですね。」とル

ームメートが7 言った。きれいかどうかが重要でなくて、私にとって、「新しい服を着て、新しい心境、新しい自分を作ろう。そして、過ぎ去りし日々の不快なこと²³をこれきり忘れて、来る日を迎えて、時間を大事にして、自分の作りたいことを実現するために、がんばろう。」という意味がもっと大切だ。

4. 母の愛

先日、母から電話をもらった。例のあいさつの言葉の後、例の文句を出してきた。一人でさびしいとか、話し相手もいないとか、私が⁷ 話してくれないとか、いろいろ小言をした。それから、母は小包を一つ送ってくれると私に知らせた。電話を切ると³⁴、私は母のこと²³を思い出した。

母は今一人で田舎に暮らしている。元気で生活しているが、時々さびしい感じがするように、私に電話をしてくれる。私は2年前に大学を卒業してから³²、この町に来て、今の仕事をしている。この町は故郷に遠くて、仕事もたいへん忙しい。それに、わたしは乗り物に乗ると³⁴、すぐ気分が悪くなる。とくに車が苦手だ。だから、私はいつも母が懐かしいけれども、仕事のために、田舎へ帰って母を見舞うことができない。時々母に「親不孝の子だよ²⁶。」と嘆かれる。しかし、「どんなだめ子供や、親不孝の子供など、親からかわいがっている。」と母がいつも話す。

今日母からの小包が届いてきた。中には綿入れの服と綿入れの靴が詰め込まれている。これらはみな母が一針一針自分の手で縫ったもの¹²だ。私のいる町は、冬の寒さで全国で有名だ。しかし、この町の大部分の部屋の中には、暖房があります。だから、あまり寒くない。しかし、母がこれを信じない。「その町はとても寒いはずだ³¹、そんな遥かな北国にあるから。」そして、綿入れの服と靴を送ってくれた。小包を捧げると、母の面影が目の前に思

い浮かべた。私はすでに半年以上²⁰帰省していない。今年の年末には、ぜひ母に合いに帰省したいだ。

5. 豪雪

テレビをつけると³⁴、あるニュースが私の注意を引いた。近頃、全国の各地で雪が降ったそうだ²⁴。とくに南部の湖南省と貴州省には、豪雪が降り続いたので、省内の各県には、被災の程度が違ったが、多かれ少なかれ被害を受けたそうだ²⁴。テレビの画面から見ると、湖南省の衡陽市には、強風が鳴り続け、雪がうずを巻いて荒れ狂っていた。雪の深さがもう³⁰センチメートルになって、市内の交通も一時とだえた。暖かい南の地方で生まれ育った人が、豪雪に降られたばかり⁴⁸のために、雪いっぱい生活にあまりなじまない。

雪や氷のせいで、高速道路が閉鎖された。たくさんの人がバスの中から出られない。食べ物や飲み物が足りないので、多くの人が飢えや渇きを耐えて、助けてくれる人を待っている。そのかわいそうな姿が⁷わたしの心にとまっている。

私は今冬休み中で、家にいる。私のところには、冬は寒いことは寒くても、東北地方ほどの厳冬とは感じられない。今私は暖房のある部屋にいて、のんびりテレビを見ている。雪を冒して家へ帰っている人々と比べて、なんと幸せだろう。

6. ゴミの処理方法

昨日の夜、私は自習室へ行った。途中でおかしいにおいを嗅いだ。「なんのにおいだろう」と考えたが、「ああ、農作物のわらだな。」と分かった。「だが、なぜわらを燃やすのか。そんなおかしいにおいを。」私はあの煙のせい⁴⁰で、目と喉が痛くなって、涙も出てきて、ひどかっただな。人に聞くと³⁴、ある人はそう解釈し

た。「わらを燃やすのは、二つの原因がある。ひとつは、土地を肥沃するために、わらを肥料として⁴⁷、土地に返すこと。もうひとつは、ゴミとして⁴⁷のわらを現地で処理すること。」そうか。これは確かにゴミ処理の方法だが、こんな空気を汚染するひどい方法は、やめたほう⁴⁵がいいと思っている。もっとよいゴミの処理方法を探す必要があるだろう。

7. 古典の文法

今日は「古典の文法」という授業があります。日本の古典文学が⁷おもしろいと思います。「源氏物語」や「小倉百人一首」や「土佐日記」などに対して、私は深い興味があります。しかし、私はほとんどのもの¹²は現代語訳で読みますが、古典そのままのものが好きではありません。なぜならば、古典の文法が難しすぎる³⁸と思います。今の私の日本語のレベルでは、古典はおろか、現代の日本語も下手です。先生に「この古典の文法は、試験の中で必ず出てくる」と言われて、たいへんだと嘆いています。

8. テスト

今度のテストは大部分の題目は「予想以上²⁰」という感じがない。テストの前の週末は、私はたいへん努力した。いろいろ苦勞の末、教科書の本文と新しい言葉と練習など全部で復習した。「今度のテストは必ずよくできる。」と思っていた。だが、テストの問題用紙を見たとき、私はぼかんした。擬音語と擬態語の題目は全部分からないでもなかったが、大部分のは見たことがあるが、深く注意しなかった。「しまった。」と思った。しかたがなく、推測して、書いたり³⁶した。悔しくてたまらない。そのゆえ、これからもっとまじめに勉強することにしよう。

9. 寒い日

このごろ、気温が⁷ちょっと低いです。テレビの天気予報によると、今年は50年以来一番寒い年だそうです。しかし、今日は日がかんかん照っているの、室内は陽光と暖房が相まって、暑い感じがしますが、外は風が強くて、とても寒いです。

私は手にもう霜焼けができました。指に水豆ができましたから、温度が高くなる³⁹と³⁴、とても痒いです。故郷の父母が、その寒さに耐えるかどうかと心配しています。家に電話すると³⁴、故郷の冬がそれほど寒くないそうです。家の部屋には、暖房がありませんが、熱い風が出る扇風機があります。それはよかったですね。私はほっとします。

10. 音楽

私は音楽が⁷とても好きです。暇があったら、いつも音楽を聞きます。歩くとき、私はいつもラジオを持って、音楽を楽しみます。でも¹⁰ね、私は音痴です。好きな歌を歌うことができません、なんと残念でしょうね。一人いるとき、私は小さい声で歌って、ほか⁴の人に聞かれればなんと恥ずかしいでしょう。しかし、友達が「音痴でも何でも、歌が好きなら⁸、歌いましょう。恥ずかしがること²³はありません。きっと歌えば歌うほど、上手になりますよ。」そうですね。他人の目をはばからずに、勇敢に自分の好きなことをするのが一番だと思います。

11. 春節

中国の伝統的な春節は、時間が⁷長いです。私の故郷の農村で、新年は旧暦の十二月八日からです。旧暦の十二月は「腊月」と言って、十二月八日は「腊八」と言われます。その日、ひとび

とは「腊八粥」を煮する。「腊八粥」というのは、家の中であらゆる豆や米や麦や棗や落花生など、できるだけ⁵集めて、毎種をすこしずつ取って混ぜて、煮るものです。その粥は、自分の家族は食べたあと、残した部分を隣の人や親友にも贈ります。それから、新年を迎え始めます。しかし、それはただ新年の準備です。正真正銘の新年は臘月の二十三日からです。

臘月の二十三日は「小年」と呼ばれます。その日、特別の餅を作って食べます。その餅は螺旋の形で、あるいは二つの餅をくつつき、上のは小さくて、下のはちょっと大きいです。その餅は「灶神」に供されます。「灶神」は台所の神で、二十三日に天に昇って、神様に報告します。何を報告しますか。その家の過去一年中のこと²³です。「この人はよかった。その人は悪かった。」などように報告します。ですから、「灶神」はよいことばかり⁴⁸神様に話すように、人間はその餅を「灶神」に供します。それが一種の賄賂だと私は思います。「灶神」が天に昇るとき、新年が始まります。

そして、次の日、二十四日に、家を竹の葉や枝で清掃して、ゴミを掃除します。二十五日に、豆腐を作ります。なぜその日に豆腐を作るかわかりません。それから、豚肉や鶏肉や野菜や酒などを買います。三十日は大晦日です。その日に、「春聯」を門の上やそばに飾ります。除夜になると³⁴、家族はいっしょに座って、テレビを見たり、ギョーザーを食べたり³⁶します。

時代にしたがって、伝統的な行事も少し変わります。以前は品物が少ないので、人々は正月一日の前、できるだけ食べ物や使い物を蓄えます。今日は、市場の品物がとても豊富で、とくにスーパーマーケットがあちこちにあって、サービスもよいです。そのため、物を蓄えることは要りません。毎日スーパーに行って、新鮮な食べ物を買うことができます。とても便利です。

こういう春節の様々な行事は、私の故郷の風習です。あなたの

ほう45はどうだろうか15、教えてくださいませんか。

12. 私の故郷

私の故郷は南陽市です。南陽市は河南省の南西部にあつて、隣は湖北省です。南陽市は盆地で、その盆地のいちばん平らなところに、小さい村があります。それは私の生まれ育ったところ³²です。

南陽市は温帯に属して、四季の変化が著しいです。

春は三月から五月まで³³です。冬の風が日に日に柔らかくなって、天気がだんだん暖かくなります。畑の中で、小麦の苗がすすんと生きています。柳とポプラは若葉が出てきます。目に見えて、どこでも¹⁰緑の世界です。寒くて長い冬から出てきた人々は、その緑を見て、心から喜んでいます。

六月から九月の上旬は夏です。天気がちょっと暑くて、雨もたくさん降ってきます。いろいろの花が咲いています。私の故郷には、夏の花というと、バラが多いです。バラの色が多くて、赤色のほか⁴に、ピンク色、桃色、白色もあります。田畑の中で、綿の苗が著しく成長しています。農民たちは雑草を除いたり、化学肥料をやったり³⁶しています。綿は私の故郷の一番重要な経済作物です。ほか⁴には、落花生や豆もあります。旧暦の五月の初めのころ³⁵、小麦を収穫することになっています。

秋になると³⁴、透き通っている青空がよく見られて、「秋晴れ」と呼ばれたすがすがしい日が続いています。木の葉っぱがだんだん黄色くなって、とうとう秋風の中で母親なる大地の懷に入ります。ときどき秋雨が降っています。一雨になると、秋の意がいつそう深くなります。

十一月の下旬から翌年の三月まで³³は冬です。冬はちょっと厳しいです。温度は東北地方ほど低くないけれども、私にとって、